

## 母親学級クラス ～お薬について～ 薬剤師から



### 《妊娠中のお薬について》

- ・妊娠中にお母さんが薬を飲んでいることで、赤ちゃんに影響のあるお薬は、ほんの一部の限られた薬といわれています。
- ・インターネットなどで、ご自身で手に入れられる情報のすべてが正しいとは限りません。お薬に関する疑問や不安がある場合は、病院スタッフにお尋ねください。
- ・ドラッグストアなどで購入できる薬は比較的安全性が高く、通常の使用量では問題ありません。しかし、風邪薬などは様々な症状に効くように、多くの成分が含まれているものもあるので、妊娠中は注意が必要です。病院で症状に合ったお薬を処方してもらうようにしてください。
- ・風邪や感染予防のために人ごみを避け、外出後は手洗いとうがいを積極的に行ってください（但し、イソジンなどヨード系成分を含むうがい薬を頻りに長期間使用することは控えてください）。

### \* 抗生物質

ペニシリン系、セフェム系などの抗生物質は医師が必要と判断した場合に処方されます。風邪をそのまま放置したり、医師の指示通りに治療をしないことは、ときに胎児に悪影響を及ぼすことがあるため、医師から処方されたお薬は正しく服用してください。自己判断でお薬を減らしたり、勝手に中止するのは避けてください。

### \* 鉄剤（貧血の薬）

妊娠の経過に伴い、鉄が不足する状態になることがあり、また赤ちゃんの発育にも鉄分が使われるので鉄欠乏性貧血になることがあります。鉄剤は継続して服用することが大切です。なお、一部排泄された鉄の影響で便が黒くなるがありますが、異常ではありません。また胃を刺激することがありますので、胃の粘膜保護剤と一緒に服用したり、食後に服用するとよいとされています。

### \* 便秘の薬

妊娠するとホルモンのバランスが崩れたり、大きくなった子宮の影響で腸の動きが悪くなる場合があります。食事だけでうまく排便を調整できない場合は下剤を使用することもできます。酸化マグネシウムは腸の水分を増やして便を柔らかくする薬剤です。習慣性がなく妊娠中でも安全に使用できるため推奨されています。刺激性下剤のラキソベロンなどは、効きすぎるとその刺激で流産や早産の原因になることがあるので、注意が必要です。

### \* 花粉症・アレルギーの薬

点眼薬や点鼻薬などの局所に使用する外用薬は、より安全に使用できます。ポララミン、クラリチン、アレグラなど、多くのアレルギーを抑える飲み薬は、胎児への影響は少ないと考えられています。

### \* 外用薬（吸入薬、点眼薬、点鼻薬、痔の薬、軟膏など）

通常、外用薬は妊娠中でも使用可能です。医師の指示通りにご使用ください。

### \* 鎮痛剤（飲み薬、貼り薬（シップ薬）、塗り薬など）

カロナールは妊娠中でも比較的安全に使用できるお薬です。ロキソニン、ボルタレン、イブなどの鎮痛剤は、妊娠の中～後期に使用すると、胎児に影響を与える可能性があります。むやみに使用せず、医師や薬剤師に相談しましょう。

☆カロナール錠



### 《授乳中のお薬について》

お母さんが服用するお薬の多くは、母乳に移行することがわかっています。

しかし、その量はごくわずかであり、ほとんどの薬は服用中でも安心して授乳できます。

- ・製薬会社や薬局からの情報紙で授乳を避けることと記載されていても、必ずしも赤ちゃんに悪い影響があるわけではありませんので、心配な場合は医師や薬剤師にご相談ください。
  - ・授乳中に安全に使用できるお薬は世界保健機関(WHO)や海外の書籍、日本の成育医療研究センターの「妊娠と薬情報センター」などからも確認することができます。
  - ・お母さんが健康でいる為に必要な薬はきちんと服用し、元気に育児ができるようにしましょう。
- 赤ちゃんにとってもお母さんにとってもメリットのある母乳育児を安心して継続できるように薬剤師もサポートさせていただきます。

妊娠中や授乳中のお薬についての疑問や不安、  
体調の変化で気になることがあれば、お気軽にご相談ください。

「妊娠・授乳中のお薬相談外来」もご活用ください。  
医師と薬剤師が最新の知見をもとに個別に相談や不安に応じます。

